

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	学校を中心にすえた地域活性化(子どもの元気から広がるまちづくり事業)
対象地域	京都市左京区花脊
活動概要	<p>市面積の約15%を占める京都市左京区北部地域は京都市の北に位置する中山間地であり、95%は豊かな森林であり、下流域の飲み水や水運を支える水源の里として、また、木材供給基地として四季が織りなす美しい景観とともに、古代から地域住民が守り育ててきた地域である。</p> <p>近年、林業の低迷や交通の利便性などから、過疎化高齢化が進行している(H20の人口は、S35当時の40%、461人(193世帯))。その結果、地域の財産である農林地の管理が困難となりつつあり、また地域組織の役員の担い手や集落の協同活動への参加者が減少するなど集落維持機能が低下してきている。</p> <p>こうした現状の中、別所、花脊、広河原地区の小学校、中学校の存続の危機に際し、保護者や地域住民に花脊峠以北の地域の象徴として学校存続の思いが共有され、北部まちづくり委員会(以下、委員会という。)が中心と進められた結果、「全国に発信する山間地のモデル校」として、H19年4月に6つの小中学校を統合した京都市初の「施設一体型小中一貫教育校」花脊小中学校が開校した。</p> <p>開校の経緯から、学校の存続と発展に対して、地域存亡への危機感と地域活性化への期待感が、地域住民で共有されており、今回の活動で、花脊小中学校の児童生徒数を減少から増加に転じるための定住人口の拡大、地域内産業・雇用の創出、都市住民(地域外の児童生徒を含む)との交流促進などを図り、地域の活性化、集落維持機能の再編促進をすすめることをめざす。</p>
今年度の主な取組	<p>①住民合意による花脊小中学校校区の地域活性化ビジョン及び同ビジョンの実行計画を策定するとともに実施主体を確立する。 校区住民全員を対象としたワークショップをはじめ、実施主体となるリーダーの育成も踏まえたビジョンを創出する。 検討は、森林整備や集落機能再編を柱とする。また、校区内住民や都市住民を対象とした意識調査アンケートにより活性化ビジョンの基礎を固める。</p> <p>②児童生徒数の増をめざした空家空地を活用した循環する定住促進事業。実地調査と所有者への聞き取り調査により物件のデータベースを作り上げ、委員会のホームページを活用した定住情報の発信など、持続的に定住者が循環する定住促進事業を立ち上げ実施する。</p> <p>③都市住民(児童・生徒)と地域住民が共同して京都の水源である当地の山の整備を行いながら、当地域の魅力を知ってもらい、定住者の増へとつなげる。</p> <p>⑤南北20キロに渡る広域な校区において、孤立しがちな住民相互の意識の連携を図るために、地域の様々な情報を掲載した地域情報誌を月1回以上のペースで発行し全戸配布する。</p>

活動結果	<p>住民間合意や情報誌を活用した情報共有に留意しつつ、これまでの地区の枠を越えて小学校区を1つの集落として議論し、「地域活性化ビジョン」を定めることができた。ワークショップなどの活動をとおして、今後の地域づくりの核となる「地域リーダー」的な人材を見出せたことが大きな成果となった。</p> <p>定住促進事業においては、貸し手借り手の交流が少なく今年度の移住は実現されなかったが、今後の貸借双方の顔が見える環境づくりが課題として把握できた。</p> <p>水源の森交流事業においては、伐採などの取組やフォーラムをとおして地域内外の協働により山を守り育てる取組をすすめる道筋ができた。</p>
当初予想していなかった効果	<p>水源の森交流事業において、地域の山林所有者からヒノキの寄贈と伐採作業での協力を得たことを契機に、京都の事業者が参加する「京都環境コミュニティー活動」の水源の森づくりチームと協働して森林の保全活動をするようになった。</p>
実施状況(写真)	<div data-bbox="545 741 1037 1014" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="459 1028 1185 1064">【写真】地域づくりビジョンを合意したワークショップの様子</p>
応募団体名	<p>北部まちづくり委員会 花背小学校 花背中学校(小中一貫教育校)学校運営協議会</p>
リンク	<p>http://kokoima.jp/</p>
部局/担当者名	<p>事務局 瀧本 純</p>
連絡先	<p>TEL 075-746-0215 FAX</p>
推薦市町村名	<p>京都府京都市</p>